

令和6年9月26日(木)
大崎タイムス掲載

働く人の安全、健康確保

宮城労基協 古川支部など 事業所をパトロール

働く人の健康管理や職場環境改善について意識を高め、職場での自主的な活動を通して労働者の健康確保などを図る「全国労働衛生週間」が10月1~7日に行われる。これを前に宮城労働基準協会古川支部と古川労働基準監督署は24日、「安全衛生パトロール」として大崎市古川塚目の車載モジュール等製造「アルプラスアルパイン古川第2工場」を訪れ、安全衛生の確保に向けた取り組み状況を確かめた。

全国労働衛生週間に

同工場（橋本哲也工
場長、従業員数140
人）は、各部門長で
安全衛生委員会をつく
り、従業員のストレス
チェックやメンタルチ
エックを通じ休職の予
防を図っている。健康
管理室を設けて保健師
が常駐し、従業員の定
期的な健康管理にも力
を入れている。

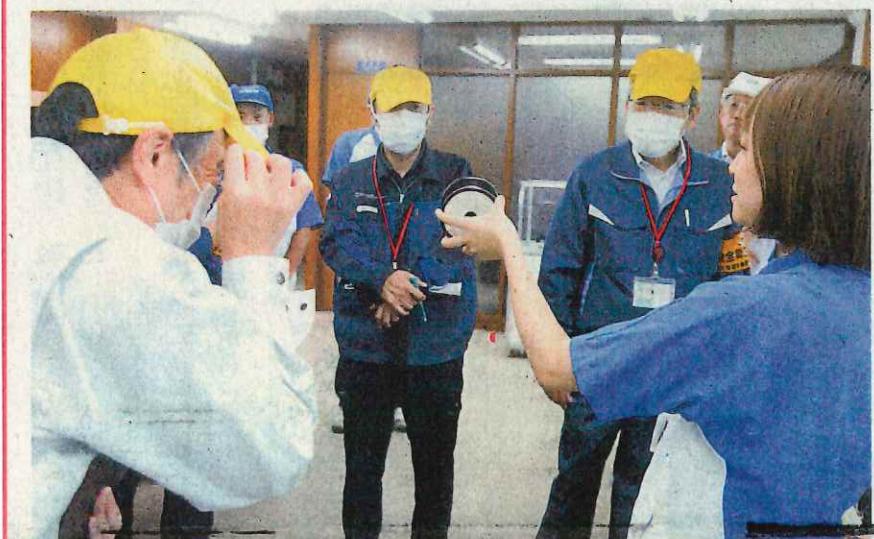
製造現場では、作業
者と管理者の帽子の色
を分けたり、点灯して

が把握。天井クレーン
については震度4以上

の地震発生後、各部
の異常を細かに点検した
上で稼働させていると
いう。

橋本工場長は「外部
からの指摘を踏まえ、
労働環境改善の取り組
みをさらに前進させたい」と話していた。

工場内をパトロールする安全衛生指導員ら



（橋本哲也工
場長、従業員数140
人）は、各部門長で
安全衛生委員会をつく
り、従業員のストレス
チェックやメンタルチ
エックを通じ休職の予
防を図っている。健康
管理室を設けて保健師
が常駐し、従業員の定
期的な健康管理にも力
を入れている。

製造現場では、作業
者と管理者の帽子の色
を分けたり、点灯して

が把握。天井クレーン
については震度4以上

の地震発生後、各部
の異常を細かに点検した
上で稼働させていると
いう。

橋本工場長は「外部
からの指摘を踏まえ、
労働環境改善の取り組
みをさらに前進させたい」と話していた。